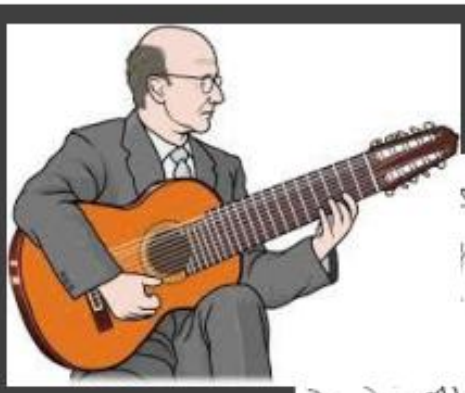
10 弦ギターの紹介

10 弦ギターのイエペス



10 弦ギターの私

10 弦ギターの紹介

10 弦ギターは、スペインのギタリストの**ナルシソ・イエペス**が、スペインの著名なギター製作者**ホセ・ラミレス**の協力を得て開発したギターを指す。一般的なギター（6 弦）に低音部の弦を 4 本追加したもので、演奏のためというよりも、倍音を均等にすることを目的として設計された。調弦は 7 弦を 6 弦の 3 度下の C、8 弦を B♭、9 弦を G♯、10 弦を F♯とする。これはイエペス式と呼ばれる。

ナルシソ・イエペスの信念である「芸術は神のほほえみである」の名のもとに 10 弦ギターで世界各地を演奏活動して回ったことにより、日本はもとより全世界で圧倒的な人気を誇り、なお且つ世界各地に及ぼした音楽的影響の高さはひときわ抜きん出ていた。10 弦ギターでは、演奏の軽快さが多少犠牲になり、一部では批判もあったが、均一な共鳴をもつ透明度の高い音色を実現し、多くの音楽愛好家に受け入れられた。（「ウキペディア」より）

製作者：中山修氏の紹介

中山修氏は、小原安正氏の弟子であり、1960 年にスペインへ留学、ギターを**ナルシソ・イエペス**氏に師事。また、**ラミレス工房**に入られ 9 年間を過ごした。ラミレス工房入りの際は、イエペス氏の推薦があったと聞く。69 年に帰国され、ギター製作家・演奏家としてデビューし、活動を始められた。

同氏のギターは、当時より最高品質のクラシックギターで、現代ギター社が最初に発刊したギター名鑑とでも言うべき「ギターの知識」でも紹介されている。本来ならギタリストとして、またギターの名工として順風満帆のはずであったが、79 年に不慮のバイク事故にあわれた。両手首の複雑脱臼。医師から再起不能と宣告されたほどの大事故であったという。 演奏家として、製作家として絶望的な宣告をうけた中山氏は、材料・治具などギターに関するもの、すべてを焼却処分され、ギターの世界から身を引かれた。その後夫人の実家がある九州・久留米に移り住み、地元の木工工場で一人の職工としての生活を始め、定年退職された。しかし、2000 年のある晩、「竹で作られたギター」の夢をきっかけに、竹を材料としてギター製作を再開。バンブーギター製作家「中山修」は、こうして復活し、現在至っている。（ネット情報等を参考に作成）

写真：中山氏と愛弟子前田氏、そして中山氏製作 10 弦ギター（矢ヶ部所有）